

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 表 現：外国語表現の能力
 理 解：外国語理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)	
ア 聞くこと (ウ)	1	(1) How are you? に対して正しく応答することができる。		理 解	80.0	73.9	
		(2) Whose を用いた疑問文に正しく答えることができる。		理 解	65.0	39.3	
		(3) thank you に対して正しく応答することができる。		理 解	80.0	76.2	
		(4) How long ～? に対して正しく答えることができる。	◇	理 解	70.0	32.9	
ア 聞くこと (ア) (イ)	2	(1) まぎらわしい数字の発音や月を聞き分けることができる。		理 解	75.0	77.2	
		(2) 人の居場所や行為を聞き分けることができる。		理 解	70.0	95.2	
		(3) 数字や教科、曜日を聞き分けることができる。	◇	理 解	75.0	65.2	
		(4) 数字と簡単な形容詞を聞き分けることができる。		理 解	70.0	73.4	
ア 聞くこと (オ)	3	まとまりのある英文を聞いて概要を理解することができる。	◇	理 解	60.0	37.7	
エ 書くこと (イ)	4	(1) 三人称・単数・現在形の文を書くことができる。		言・文	50.0	51.3	
		(2) 三人称・単数・現在形の文を書くことができる。		言・文	40.0	34.4	
		(3) 適切な be 動詞を書くことができる。		言・文	50.0	58.9	
		(4) 現在進行形の疑問文を書くことができる。		言・文	50.0	44.5	
		(5) 一般動詞の過去形の否定文を書くことができる。		言・文	50.0	25.0	
ウ 読むこと (イ) (ウ)	5	(1) まとまりのある英文を読んで詳細を把握することができる。		理 解	70.0	88.5	
		(2) まとまりのある英文を読んで詳細を把握することができる。	◇	理 解	70.0	64.0	
		(3) まとまりのある英文を読んで詳細を把握することができる。	◇	理 解	60.0	64.1	
		(4) まとまりのある英文を読んで要点を把握することができる。	◇	理 解	70.0	65.8	
		(5) まとまりのある英文を読んで要点を把握することができる。	◇	理 解	50.0	55.6	
ウ 読むこと (イ) (ウ)	6	(1) 対話文や説明文を読んで詳細 (内容) を把握することができる。	◇	理 解	60.0	89.8	
		(2) 対話文や説明文を読んで詳細 (内容) を把握することができる。	◇	理 解	70.0	85.6	
エ 書くこと (ア) (イ)	7	(1) 命令文 (Let's ～) を書くことができる。		表 現	60.0	68.0	
		(2) 対話に合う What を用いた過去進行形の文を書くことができる。		表 現	50.0	48.9	
		(3) 対話に合う How many + 名詞の語順の文を書くことができる。		表 現	40.0	64.4	
ウ 読むこと (イ) (ウ) (エ)	8	① ②	(1) 場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	◇	理 解	60.0	60.4
				◇	理 解	60.0	78.2
		(2) 場面に合った対話の流れを理解することができる。	◇	理 解	50.0	43.4	
エ 書くこと (ア) (イ)	9	(1) What time を用いて日本語に合う英文を書くことができる。		表 現	40.0	24.0	
		(2) When を用いて日本語に合う英文を書くことができる。		表 現	40.0	43.0	
		(3) How を用いて日本語に合う英文を書くことができる。		表 現	40.0	27.3	
エ 書くこと (ア) (イ) (エ)	10	指示に従って、まとまりのある英文を書くことができる。	◇	表 現	40.0	19.4	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡	
1	(1)	How are you? に対するの応答	80.0	68.4	67.4	83.0	76.9	73.2	72.1	83.7
	(2)	whoseを用いた疑問文への応答	65.0	39.4	39.5	37.4	37.9	38.4	38.3	37.2
	(3)	お礼の言葉に対する対応	80.0	78.5	78.5	79.5	81.1	78.3	85.5	81.7
	(4)	How long～?に対するの応答	70.0	41.1	41.7	32.2	35.4	35.7	37.9	33.5
2	(1)	まぎらわしい数字の発音の聞き分け	75.0	74.9	74.8	77.2	77.2	76.7	70.7	81.7
	(2)	物や人の場所の聞き分け	70.0	95.3	95.4	94.7	95.2	95.1	94.5	95.7
	(3)	数、教科名、曜日の聞き分け	75.0	65.1	65.3	62.0	63.4	65.2	63.8	61.1
	(4)	数と容易な形容詞の聞き分け	70.0	72.8	72.7	74.3	76.9	73.0	82.1	78.2
3		まとまりのある英文の概要理解	60.0	39.5	39.7	36.8	34.8	38.4	36.9	29.6
4	(1)	三人称・単数・現在形の動詞の記入	50.0	52.6	52.3	57.9	60.5	53.7	48.6	75.1
	(2)	三人称・単数・現在形の動詞の記入	40.0	42.0	42.5	35.7	33.3	32.5	27.6	37.7
	(3)	適切なbe動詞の記入	50.0	64.0	63.7	69.0	60.8	56.7	51.4	70.8
	(4)	現在進行形の文の動詞の記入	50.0	47.5	47.8	43.9	48.3	51.2	47.6	45.5
	(5)	一般動詞・過去形の否定文の語句記入	50.0	24.9	24.9	24.6	25.2	20.4	28.6	28.4
5	(1)	まとまりのある英文の詳細理解	70.0	89.5	89.8	86.5	89.0	87.4	93.1	88.5
	(2)	まとまりのある英文の詳細理解	70.0	66.7	66.8	64.3	65.7	62.9	71.4	65.4
	(3)	まとまりのある英文の詳細理解	60.0	65.5	65.5	64.9	64.8	63.5	66.9	64.8
	(4)	まとまりのある英文の要点理解	70.0	65.9	65.8	66.7	67.0	68.8	65.9	65.8
	(5)	まとまりのある英文の要点理解	50.0	59.3	59.9	50.3	54.6	56.5	52.1	54.1
6	(1)	対話文を読んだの詳細（内容）把握	60.0	91.4	91.6	88.3	89.7	90.0	91.4	88.5
	(2)	対話文を読んだの詳細（内容）把握	70.0	86.0	86.2	83.6	86.1	83.9	87.9	87.4
7	(1)	対話に合う命令文	60.0	71.0	71.2	68.4	69.3	69.2	76.2	65.4
	(2)	対話に合うWhatを用いた過去進行形の文の完成	50.0	57.5	58.0	49.7	51.4	49.1	50.3	54.5
	(3)	対話に合うHow many+名詞の語順の文の完成	40.0	71.5	71.0	77.8	76.6	74.1	80.7	76.7
8	(1)	① 場面に合う適切な英文の選択	60.0	62.8	63.0	59.6	59.8	59.9	58.6	60.5
		② 場面に合う適切な英文の選択	60.0	79.4	79.5	77.2	77.9	76.7	81.7	76.7
	(2)	場面に応じた対話の流れの理解	50.0	45.2	45.9	35.1	43.4	43.5	47.2	40.9
9	(1)	What timeを用いた日本語に合う英作文	40.0	30.4	30.7	26.9	26.0	24.0	33.8	23.5
	(2)	Whenを用いた日本語に合う英作文	40.0	43.7	43.5	45.6	46.0	41.2	56.6	44.9
	(3)	Howを用いた日本語に合う英作文	40.0	32.1	32.7	23.4	33.0	28.4	43.8	31.5
10		条件に合うまとまりのある英作文	40.0	24.5	24.9	18.7	11.0	6.2	12.1	15.4
教 科 全 体			58.5	59.6	59.8	57.9	58.7	57.2	59.8	59.5

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
66.3	66.7	63.2	69.0	64.9	76.9	81.6	70.5	76.4	82.8	84.3	77.4	79.7	79.7	79.8	73.9
32.6	32.7	36.2	28.9	32.0	41.9	43.7	45.2	39.3	42.0	42.1	41.8	42.5	43.5	38.6	39.3
74.8	77.4	69.8	71.8	70.3	76.6	79.4	76.8	74.6	79.9	81.4	74.7	71.5	71.8	70.5	76.2
30.7	32.6	27.0	29.6	26.3	37.9	45.0	42.0	31.4	29.5	32.2	19.9	21.7	21.7	21.9	32.9
74.3	73.1	75.2	73.9	79.5	78.0	81.2	77.8	75.9	82.6	83.5	79.5	79.7	80.6	76.1	77.2
93.1	93.1	90.3	93.7	95.8	95.8	97.7	95.8	94.6	97.6	97.7	97.3	95.6	95.6	95.8	95.2
62.1	62.5	59.4	58.5	67.2	71.0	72.8	71.8	69.6	68.1	72.3	53.4	63.9	64.4	61.9	65.2
69.9	70.7	66.4	69.0	71.0	76.4	77.7	79.9	74.0	82.0	86.4	66.4	71.1	71.8	68.4	73.4
33.2	33.9	31.4	31.3	33.6	41.8	45.0	39.4	40.6	40.2	42.6	31.5	37.7	39.0	32.5	37.7
46.9	44.0	44.7	63.4	47.1	64.9	76.7	65.8	56.7	62.2	73.4	22.6	37.5	40.3	26.3	51.3
23.6	23.7	17.0	25.0	29.3	37.5	46.8	38.6	30.7	37.0	40.9	23.3	33.5	36.8	20.5	34.4
58.2	60.7	47.5	53.9	62.9	61.0	72.4	60.8	53.5	55.1	58.7	42.5	52.9	54.9	45.3	58.9
37.1	38.0	22.6	41.9	44.8	38.9	43.6	41.5	34.6	48.8	52.5	35.6	48.4	51.0	38.2	44.5
17.7	17.8	13.8	20.4	18.9	25.9	36.1	23.8	20.0	34.7	38.8	20.5	27.8	29.9	19.6	25.0
86.2	86.5	79.2	86.6	93.1	88.6	90.4	89.6	87.1	88.2	89.7	82.9	89.1	89.4	88.2	88.5
58.0	59.2	51.3	58.5	59.1	66.4	71.6	68.1	62.2	65.3	66.1	62.3	63.6	64.3	60.9	64.0
60.1	59.6	58.5	60.9	63.7	66.1	69.8	65.5	63.8	62.5	65.5	52.1	64.7	66.0	59.3	64.1
64.7	64.8	59.7	64.8	69.9	66.6	72.3	66.8	62.8	64.7	64.9	63.7	65.7	67.0	60.7	65.8
51.9	52.6	44.0	50.4	59.1	55.8	60.0	57.7	52.2	55.6	58.7	44.5	55.4	55.9	53.5	55.6
88.3	88.8	81.1	88.0	94.6	89.7	92.2	90.3	87.7	90.5	91.7	86.3	89.5	89.6	89.3	89.8
83.6	84.4	74.8	84.9	88.8	87.1	91.5	86.7	84.4	85.3	86.4	81.5	85.7	86.6	82.1	85.6
57.4	57.9	49.4	56.3	65.6	69.1	75.4	77.8	61.3	72.4	74.8	63.7	71.1	72.0	67.5	68.0
41.4	42.3	28.0	46.8	47.1	49.1	58.6	52.2	41.6	52.4	56.4	38.4	44.7	47.2	34.6	48.9
56.1	59.1	45.3	49.3	61.8	66.9	75.5	66.8	61.2	66.6	72.5	45.9	56.5	58.5	48.6	64.4
53.7	54.3	48.4	51.8	59.5	65.9	71.0	72.1	59.9	61.8	66.1	46.6	59.7	61.0	54.6	60.4
72.2	72.4	64.5	71.8	81.5	79.2	84.5	80.2	75.2	80.5	82.4	74.0	80.6	81.6	76.7	78.2
38.5	39.8	34.3	35.6	39.8	43.6	48.6	46.2	39.1	42.9	45.7	32.9	45.5	47.2	38.9	43.4
19.4	21.0	10.7	16.2	25.5	23.7	32.0	24.3	18.0	20.4	21.7	15.8	21.5	22.7	16.8	24.0
31.4	31.3	26.7	30.3	38.6	38.5	46.8	42.8	31.3	53.3	56.0	43.8	50.9	52.8	43.3	43.0
21.1	22.5	15.7	15.8	26.3	38.2	43.7	42.6	32.8	33.5	37.8	18.5	15.9	15.3	18.1	27.3
15.3	14.9	14.2	19.0	14.7	15.3	12.7	28.5	11.6	26.7	31.2	11.0	23.0	23.2	21.9	19.4
52.2	52.8	46.8	52.2	55.9	59.2	64.4	60.9	55.0	60.2	63.0	50.0	56.5	57.6	52.0	57.3

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった問題 (10問)	通過率の低かった問題 (10問)	各内容・領域の 通過率 (%)	設定通過率 (%)
聞くこと	9	1(1)、1(3)、 2(1)、2(2)、 2(4)	1(2)、1(4)、3	63.6	71.7
読むこと	10	5(1)、6(1)、 6(2)、8(1)②	8(2)	69.5	62.0
書くこと	12	7(1)	4(2)、4(5)、 9(1)、9(2)、 9(3)、10	42.4	45.8

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題 (10問)	通過率の低かった 問題 (10問)	各観点の 通過率 (%)	設定通過率 (%)
外国語表現 の能力	7	7 (1)	9(1)、9(2)、 9(3)、10	42.2	44.3
外国語理解 の能力	19	1(1)、1(3)、2(1)、 2(2)、2(4)、5(1)、 6(1)、6(2)、 8(1)②	1(2)、1(4)、3、 8(2)	66.7	66.6
言語や文化 についての 知識・理解	5		4(2)、4(5)	42.8	48.0

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率 (%)	設定通過率 (%)	主な誤答 (無答を含む) 例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	(2)	39.3	65.0	エ (43.0)、ア (7.0)、イ (7.0)
	(4)	32.9	70.0	イ (30.0)、ウ (17.0)、エ (16.0)、無答 (3.0)
3		37.7	60.0	イ (32.0)、ア (18.0)、エ (6.0)
4	(2)	34.4	40.0	study (27.0)、studys (8.0)、is (7.0)
	(5)	25.0	50.0	were (23.0)、are (12.0)、無答 (7.0)、was (6.0)、am (4.0)、do (3.0)
9	(1)	24.0	40.0	無答 (12.0)、What time do you ~? (10.0)、What time is Yumi ~? (6.0)、What time do Yumi ~? (4.0)、What time is it ~? (4.0)、What time did Yumi ~? (3.0)、What time Yumi is ~? (3.0)
	(3)	27.3	40.0	無答 (18.0)、What can you going ~? (16.0)、疑問詞なし (7.0)、How about you go ~? (6.0)、How can I get to ~? (5.0)、Where is you come ~? (4.0)
10		19.4	40.0	15語以上で書いているが、間違いがあるもの (47.0)、無答 (16.0)、14語以内で書いているもの (12.0)

- 誤答の原因として、**1**(2)では、エの誤答が多かった。教科書で初出した際の基本文は単数扱いとなっており、その後も教科書本文にあまり現れないことから、活用される機会が少なかつたと考えられる。このため、学習した単元の後でも、繰り返し活用する活動の工夫が必要である。
- 誤答の原因として、**1**(4)では、Howを用いた「疑問詞＋形容詞」の文構造について、How many ～？、How much ～？、How old ～？については習熟されているものの、How long ～？のような「How＋形容詞」の用法については活用する機会が少なかつたと考えられる。このため、日頃から日常的な英会話練習として、クラスやペアなどで話したり聞いたりする活動のように、繰り返し活用させるような指導の工夫が必要である。
- 誤答の原因として、**3**では、イの誤答が多く、聞き取る英文の内容として、父が誰に英語を教えるのかについて聞き取れなかつたことが考えられる。このため、まとまりのある複数の英文を聞き、その全体の概要や内容の要点を捉えることができるような活動を行うことが大切である。
- 誤答の原因として、**4**(2)ではstudy、(5)ではwereの誤答が多かつたことから、主語sheが三人称単数であることの理解が不十分であつたことや、文中に一般動詞とbe動詞を混在させないことなど、一般動詞とbe動詞を区別する力が不十分であつたことが考えられる。このため、文法事項を指導する際、一つ一つの事項の指導において英語の特質を理解させるだけでなく、関連のある文法については、より大きなカテゴリーとして整理して理解させることが必要である。例えば、現在形や過去形の指導の後、時制として整理したり、英語と日本語の違いに焦点を当てて整理したりするなどである。また、既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を、例えば「まとめ」などとして比較対照しながら、まとまりをもって整理するなど、効果的な指導を行うことが必要である。
- 誤答の原因として、**9**(1)では、What time do you ～？など文頭はWhat timeで始めていても疑問文を正しく表すことができている誤答が多く、(3)では、WhatやWhereなど、How以外の別な疑問詞で答えていたことから、Howで始まる疑問文が十分定着していなかつたと考えられる。さらに、「疑問詞＋名詞」や、疑問詞で始まる疑問文は、yes-no疑問文と違って理解が不十分であつたと考えられる。このため、折を見て復習し、繰り返し活用することを通して定着を図ることが大切である。また、yes-no疑問文を含めた疑問文は、平叙文とは異なる語順になったり、動詞の形が変化したりすることが多かつたため、言語活動の中で何度も使用することで慣れさせる必要がある。
- 誤答の原因として、**10**では、15語以上で書いてはいるものの、文構造や時制等の誤りや単純な単語の羅列が多く見られたことから、文を構成する力が十分でなかつたことが考えられる。文をつくる力を育成するために、文構造を理解して、語順に注意して文を書いたりする活動等を行うことが重要である。指導に当たっては、文構造の学習は、あくまでもコミュニケーションを行うための基礎的な力として必要であるという認識をもつことが重要である。具体的には、同一の文構造を繰り返し指導したり、時制や修飾といった文法は個別事項の学習後にまとめて取り扱ったりすることによって、理解の体系化を図るとともに、適切な表現を選択する活動を取り入れることなどが考えられる。また、英語で文章を書く際には、「できるだけ多く書くこと」や「正しく書くこと」についても、生徒に意識させることが大切である。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、「書くこと」の向上が挙げられる。

今後の指導においては、語彙や表現の拡充、文法や文構造についての知識・理解の定着を図るため、日記、レポート、スピーチ、Show & Tellなど自己表現活動として「書くこと」の指導の充実を図ることが大切である。単語テスト、ビンゴゲーム、パターンプラクティスなどは基礎的・基本的な語彙や表現の習熟を図る上では大切であるが、定着に向けては、実際の場面を設定したコミュニケーション活動での運用をすることが必要である。

また、生徒の実態に応じて、ペアやグループなどの小集団活動を取り入れたり、「青森県版中学校英単語集～VERSION IV～」を積極的に活用する必要がある。

指導例

自己表現活動として対話文をつくり、書く力を高める指導 ～「グループでスキットをつくろう」～

【指導の流れ】

ポイント

「青森県版中学校英単語集～VERSION IV～」のWORDリストと対話例文を活用する。

1 スキット場面を提示し、使用する語彙・表現の意味や使用方法を確認する。

学習活動 指導者とALTとのモデルスキットを見て、場面や使用する語彙・表現を確認する。

ポイント

学習段階に応じて、県版英単語集の対話例文から場面を選ぶとともに、実態に応じて、内容や語彙・表現等を工夫する。

2 場面に合うスキットを作成させる。

学習活動 各自のアイデアを基にグループでスキットを作成する。

3 スキットを発表させる。

学習活動 全体の前でスキットを発表する。

4 スキットに対する意見、感想を発表させる。

学習活動 スキットに対する意見、感想をその場で考えて自分の言葉で伝え合う。

5 全グループのスキット文を提示する。

ポイント

スキット場面に応じて、使用可能な単語を県版英単語集からリストアップして、「ワードバンク」として提示する。また、県版英単語集に掲載されている例文も一緒に提示する。

学習活動 各自が全グループのスキット文の読み取りを行う。

他のグループの発表を見て、同じ単語・表現でも、いろいろな使い方があることが分かりました。



ポイント

- ・意見や感想を伝えるための基本的な語彙・表現を提示する。
- ・事前に作成した原稿を暗唱して発表する活動ばかりではなく、その場で即興的に考えさせ、伝え合う活動にも取り組ませる。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、伝えたい内容を適切な英文で書く力や、自分の考えや感想等を書く力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、自分の考えや感想等を書くために必要な語彙や文構造等に関する知識を深め、活用させるとともに、読み取った文中の表現を活用することを促すような指導を工夫することが大切である。読んだ英文の一部分を書き写させたり、英文の一部分を用いた文を書かせたりするなど、読んだ英文を活用させることも基礎的な活動として大切である。

「活用」に関する問題についての課題は、まとまりのある英文を書く力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、「書くこと」と「読むこと」を統合した活動を計画的に設定し、自分の考えや感想等をまとめ、それらを適切に書くことに慣れ親しむよう指導する工夫が有効である。

具体的には、教科書をはじめとして、学習内容に応じた多様な英文を取り扱いつつ、意味が分からない語句や表現等については推測させたり、辞書指導を行ったりするなど、英文の読み取り方に関する指導の工夫が考えられる。

学習指導要領では、言語活動の指導事項の1つに、「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結び付けることの大切さが挙げられている。「読むこと」は、生徒にとって受け身的な活動にとどまる傾向が見られたが、今後は、「話すこと」や「書くこと」と関連付け、「発信する活動」へと発展させることが大切である。また、その場で考えて自分の言葉で表現する力を育成するなど、技能統合的な活動を、学習段階に応じて計画的・系統的に繰り返し行うことが大切である。

指導例

「読むこと」を発信する活動（「話すこと」や「書くこと」）に結び付ける指導

【指導の流れ】

1 英文の概要についての口頭説明を理解させる。

学習活動 教師による口頭説明により、英文の概要や背景等を理解する。

ポイント

- ・生徒が理解しやすいよう、絵や画像、動画等を使って説明する。
- ・事前に、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、内容についての質問を行うことも効果的である。

※英文は、平成26年度学習状況調査中学校第2学年英語調査票から引用

Hello, everyone. I like voluntary activities, so I am a member of the volunteer club. We talk with old people, play with children and clean many places on Saturday.

We visited an old people's home near our school last week. We enjoyed *origami*, *kendama* and *karuta* with old people in the morning. It was a lot of fun. In the afternoon, we cleaned the rooms and wheelchairs. After that, we enjoyed some traditional Japanese songs, *furusato* and *sakura* with the old people. They looked very happy. I was very tired, but I had a very good time.

I think voluntary activities are for others and for myself.

2 英文の要点（行為やできごとなどの事実や話の流れ）について理解させる。

学習活動 英文の要点についてのQ&Aを行う。

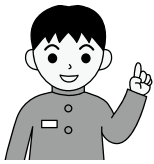
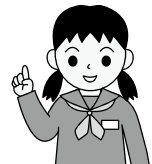
3 英文の内容や書き手の意見などに対して自分の考えをもち、その理由を明らかにさせる。

学習活動 各自が英文の内容に関する問いかけに対する自分の考えをもち、その理由を明らかにする。



What kind of voluntary activities do you want to do?

I want to play with children because I like young children.
And I want to be a nursery school teacher in the future.



I want to clean the park near our school.
First, I often see many cans and trash there.
Second, I play soccer with my friends there.
So, I want to keep it clean for many people.

学習活動② ペアやグループで発表し合う。

ポイント

各自の考えをグループでまとめて、全体の場で発表させるのも効果的である。感想や意見だけではなく、多様な語彙や表現についても全体でシェアすることにつながる。

中学校学習指導要領で示される「技能統合」では、聞いたり読んだりしたことについて、自らの考え（意見、感想、賛否など）を述べることができる生徒の育成が求められている。自らの考えを述べるためには、聞いたり読んだりした内容を理解できていることが前提であることは言うまでもない。さらに、話し手や書き手が述べた内容を引用したり、要約した上で自らの考えを述べたりすることは、話題や互いの考えの共通理解を図ることになり、円滑なコミュニケーションを図るために重要である。自己表現を急ぎ過ぎるあまり、互いの考えが共通理解されないまま自らの考えだけを伝えると、一方通行の情報伝達になり、真のコミュニケーションが行われたことにはならない。そこで、充実した双方向のコミュニケーションを可能にする土台固めや、語彙や表現の拡充、文法や文構造についての知識・理解の定着を図るために、「Reporting活動」による学習が有効である。

指導例

4技能を統合した指導

～単元名「グループでもとのストーリーを再生しよう」～

【指導の流れ】

1 Group Work Reportingをさせる。

学習活動① 各グループは、1人ずつレポーター役を決める。各レポーターは教室の外でピクチャーカードを見ながら、教師が英語で話すまとまったストーリーを聞く。

学習活動② 各教師の話すストーリーを聞いたレポーターは教室内に戻って、自分のグループメンバーに聞き取った内容を英語で伝える。



- ①メモをとらないで、ストーリーを聞こう。
- ②自分の今ある英語力を駆使して、グループのみんなに伝えよう。

学習活動③ レポーター以外の生徒は、メモを取りながらレポートを聞く。

学習活動④ 1人目のレポートが終了した後、グループ内で順次レポーター役を交代して、グループメンバー全員が1度はレポーターとなり、教師から直接話を聞く機会をもつ。

学習活動⑤ レポーターからの情報に基づいて取りためたメモや自ら聞き取った内容を統合し、グループで協力してストーリーを再生した英文を書いて完成させる。



ストーリーを再生する際に、自分の意見や感想を書いてもいいよ。

学習活動⑥ グループでまとめた内容を各グループの代表が口頭で発表する。

学習活動⑦ 教師が伝えたストーリーをプリントにして読み、その英文を参考にしながら、各自の英文を見直し、書き直す。

ポイント

先に示した①～⑥の学習活動に加え、生徒の英文の質を高める学習機会を設けるために⑦を行う。これが生徒にとって必要感のあるインプットになる。

(一連の学習活動)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
活動	教師の話を聞く	グループへのレポート	メモを取りながら聞く	①～③ 繰り返し	グループで再生した英文作成	各グループの再生した英文発表	もとの英文の読みと再生した英文見直し
技能	聞くこと (レポーター)	話すこと 聞くこと	書くこと (レポーター以外)	聞く・話す 聞く・書く	書くこと	話すこと	読むこと 書くこと

(「ワークシート例」) (英文や予想されるメモの量に応じて、行数を調整する)

Group Work Reporting

Class () Name ()

☆ **【Topic】**

☆ **【メモ】** (英語のキーワード、絵、図、日本語で)

☆ **英語でストーリーを再現**

引用：異徹「4技能を活用した「Group Work Reporting」活動」(『STEP英語情報』2012年7・8月号)

(以下が活動方法等についての引用部分である。)

以上のように、伝える内容から用いる英語表現までを生徒が考え出さなければならぬようなアウトプットとは異なり、学習者が必要に応じてインプット情報を活用し、アウトプット活動を行うことができる活動である。いわば、インプットとアウトプットを学習者の中で有機的に結び付けた活動であり、それを通して英語の定着を図るものである。

この活動では、学習者は「英語で言いたいけど言えない」「英語を聞いて理解できたけど同じ内容をうまく英語で伝えることができない」などの状況に追い込まれる。つまり、このように追い込まれた学習者にとって、教師が話すストーリーや他の学習者のグループでのレポート、その後に配布される英文などが、学習者が必要とする表現、言語知識を供給するインプットとして有効に活用される機会となり得る。ストーリーを伝えるというアウトプットが引き金となり、学習者のインプットへの注意や意識が高まり、表現や文法的な情報をより積極的に活用しようという態度に変化するのではないかと考える。「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能を有機的に関連付けつつ総合的に指導する「Group Work Reporting」を、学習者にふさわしい形にアレンジしてお試しいただきたい。

キ まとめ

内容・領域についての学習状況は、「聞くこと」・「読むこと」においては、おおむね良好である。しかし、「書くこと」においては、「まとまりのある英文を書くこと」について、十分とは言えない。なお、このことは、「活用」に関する問題の課題でもある。

今後、「書くこと」を含め、4技能を総合的に（バランスよく）育成するためには、「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標（英語を使ってどんな場面で何をすることができるようになるのか）を具体的に設定し、年間指導計画・単元指導計画を作成する必要がある。さらには、評価場면을きちんと設定した上で、指導の手立てを明確にする必要がある。

その中で、文法指導と言語活動を一体的に行うようにするために、場面設定に必然性をもたせ、生徒がその場で考えてコミュニケーションができるような工夫が必要である。対話文等を暗記し、それを発表する活動は、基本文の定着には有効ではあるが、「真のコミュニケーション」になっていないことが多い。今後、中学校においても、「原則として、英語の授業は英語で行う」ことはほぼ確実であることから、基本となるコンセプトを「授業の中で、生徒が英語でコミュニケーションする時間を多く確保する。」として授業に臨むとともに、生徒が思考・判断する場면을コミュニケーション活動に取り入れることや、それらを書く活動に発展させることが大切である。